

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第85号 発行日2012年9月28日

Contents

加賀市でJN協会が講演会	1
東北地方の復興いまだし。「滝の湯」女将	2
霞が関情報「スカイリー」。鉄道と観光④	3
アメリカぼれ話「タイニック」。ハワイの残照	4
美味しい話。世界遺産物語24	5
城下町と観光「高遠城」。NEWSPOT	6
「源義経と辻政信」。観光立国セミナー	7
秋から冬の天気。編集後記	8



重要伝統的建造物群保存地区
赤瓦と煙出しが残る山村集落「加賀東谷」

加賀市でJN講演会 ～新幹線と北陸の観光～

JAPAN NOW観光情報協会（大島慎子理事長）は、石川県加賀市と共催で、10月22日（月）午後2時から加賀市民会館大ホールで、「新幹線と北陸の観光」と題して、講演会を開く。講師は、JN協会副理事長の須田寛氏。須田氏はJR東海の相談役で、新幹線と観光振興についての第一人者。



この講演会は、JN協会が全国各地で開いている観光フォーラムの一環で、加賀市の市長である寺前秀一氏がJN協会発足当初からの理事であり、観光にかける強い意欲から実現することになった。

寺前市長は、運輸省（現国土交通省）の出身で、日本観光協会理事長等を経て、2009年市長当選。加賀温泉郷への訪問客が最盛期に比べ半減し200万人になっている現状を憂い、取り敢えず300万人への回復を目標に掲げ、旅館の女将、芸妓らで「レディカガ」（レディガガにあやかっぺ？）を結成、加賀温泉PRに働いてもらうなど、さまざまなアイデアを打ち出している。



講師の須田氏は、旧国鉄からJR東海に移り、社長、会長を歴任した。産業観光はじめ新しい観光の振興に関し「観光」、「東海道新幹線」、「昭和の鉄道」など、多数の著書を出している。今年4月、旭日大綬章を受章した。

訪日外国人900万人は絶望的？

尖閣“烈風”が強烈なパンチに

政府が目指している2012年訪日外国人数900万人の達成が、きわめて厳しい状況になってきつつある。

日本政府観光局（JNTO）がまとめている速報によると、今年1～8月の訪日外国人数は566万6400人と過去最高だった2010年同期に比べ、3.7%の減。しかし、3・11大震災からの復旧に伴い、月ごとに入り込み数が増え、観光庁は過去最高だった2010年の861.1万人を超える可能性もあると、期待していた。

そこへ、降ってわいたのが「尖閣諸島」の国有化問題。日本政府の外国人誘致状況策によって、中国からのビザ緩和など、順風が吹き始めていた。今年1～8月の中国人来日は、113万7700人と2010年同期比9.4%増と韓国人134万7200人（同18.5%減）に次いで2位。7月は、20万人台に乗せ韓国を抜きトップに出ていた。

両国の交流が急速に拡大していた矢先の“尖閣”問題。訪日団体のキャンセルが相次ぎ、中国観光客を期待していた家電量販店、ホテル、クルーズ客船など、まさに閑古鳥が鳴く状態になっている。決定打ともいえるのが、27日予定されていた日中国交回復40周年記念式典の中止だ。

この状況は打開できるのか？中国のトップが交代するし、日本も民主党代表に野田首相が再選、自民党総裁に安倍氏が選ばれた。いずれにしても、中国人の対日感情の急速な好転は期待できないだろう。日本の総選挙も間近と思われるが、新しい政権（自民か民主か）が誕生しても、もつれた糸をほぐすには、かなりの期間が必要なのではあるまいか。

東北復興に、原発事故が大きな影 あれから1年半、多くの難問が残る

東北地方を襲った大地震・津波から1年半が過ぎた。だが神戸・淡路大地震に比べ、復興は遅々として進んでいない印象が強い。津波に福島原発事故が重なり、“三重苦”の形になっている。加えて、政治サイドの対応が、政局がらみで遅れているという要素もあるのだろう。これから、どうなるのだろうか？ともかく「東北の皆さん頑張ってください。私たちもできるだけ応援します」と、言う以外にないのが、もどかしい。

なお多くの避難者

地震発生から1年半後の2012年9月11日現在、なお34万人の避難者がいるという。震災直後から、やっと3割しか減っていない。今後の津波対策の面から復興住宅用の土地が確保できない、原発事故の影響で福島地区には入れない、などの要因が挙げられよう。

ガレキ処理も進まない

建造物損壊、津波被害で発生したガレキは、岩手、宮城、福島3県で2700万トンを超えるといわれる。これを引き受ける予定の3県外地区の対応も、遅れに遅れているようだ。その地の住民の反対が根強い、という面も否定できない。震災直後、海外のメディアから称賛された日本人の助け合い精神は、どうなったのか？震災後に帰化したドナルド・キーン氏が「日本人に失望した」と言ったと伝えられるほどだ。

産業復興も、いまだ

津波に襲われた農地の復旧は、宮城33%、岩手22%に比べ福島は9%ちょっと。ここには原発事故の影響が、はっきり表れている。壊滅的な打撃を受けた日本の穀倉地帯は、農家の人たちの努力にもかかわらず、完全復活はできるのだろうか？先行きに光が、まだ見えてこない状況だ。

漁業は、農業に比べると再起が進んでいるが、ここにも放射能汚染の風評被害で、売れない、買い叩かれるといった影響が強く残る。沿岸部にあった漁業物加工工場は津波で壊滅し、再建した工場がテレビで紹介されるケースはあるが、一部にすぎないという。

その他の製造業も、農漁業に比べると、復興は早いようだが、雇用と就業希望者のミスマッチなどで、必要な人材が集まらず、加えて円高の影響で海外への立地転換を進める企業もあり、前途は見通し難いよう。

観光は「東北観光博」で再興を目指す

東北新幹線の全線開通で盛り上がり始めた矢先に、大震災の発生。交通網は、三陸沿岸の鉄道は壊滅し、なお不通区間が大きく残る。政府主導で、来年3月まで東北6県が「東北観光博」を実施しているが、岩手県が公表したゴールデン・ウィークの入込み客は地震直後の前年比で3倍となったものの、2010年同期比では、なお10.8%のマイナス。復旧応援に来ていたボランティアの数も減り、“復興特需”に沸いたかのように見えたホテル、飲食街も一時の勢いはないという。

政治に失望感も

「復興より消費税」と言わんばかりの政府・民主党、これを批判するばかりで具体的な対応策を示さない自民はじめ野党。東北の人たちは「動かない政治」に、絶望感さえ示している。阪神・淡路大震災後の政府の対応と比べると、明らかに政治不在の感さえある。

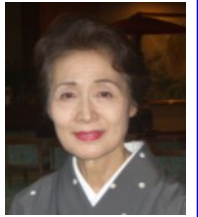
総選挙も近いよう。その結果で政権が決まるが、まだまだ空白期が続くそう。東北復興に“空白”は許されない！

「自産自消」に努める

東北観光博に積極的参加！

天童温泉「滝の湯」の山口女将

東北復興の一助にもなるだろう——そんな狙いも含めて、詩吟の会である千代田岳精会・新宿教場の一行22名は、9月初め、山形県天童市と米沢市を訪れた。毎年実施している吟行を、今年ここにしたのは、天童温泉の老舗旅館「ほほえみの宿・滝の湯」の三代目女将・山口隆子さん＝写真＝が、岳精流の大先達で、新宿教場の吟友たちが女将に会うことを強く希望したことによる。



「滝の湯」は、創業100年を超え天童温泉では、トップクラスの旅館。「人と自然にやさしい」をキャッチフレーズにしているこの旅館の特色は、まずは魅力ある女将の存在だろうが、環境に優しい取り組みが素晴らしいからでもある。広大な自家農園で隆子女将のご主人（社長）が先頭に立ち、無農薬・有機栽培の野菜、ブドウを生産。その収穫物とワインが食膳に上ることも大きい要因。宿泊客が残した残飯の類は、一切捨てず農園の一角にある装置で堆肥を作っているという徹底ぶり。バイキング方式の朝食では、60種類もの野菜を中心としたメニューがあり、まさに圧巻。

地域振興を目指す自治体の求めもあって、その地の生産物を地元で使う「地産地消」が全国で推進されているが、「滝の湯」は一步先を行く「自産自消」なのだ。

3・11大震災のあと、東北の温泉地への入り込み客は大幅に減り、やっと最近旧に復しつつあるようだが、「うちも地震では建物損壊はなかったものの、風評被害でしょうか、休業状態になりかかりました」と隆子女将。そこへ、仙台地方中心に都市ガス機能が壊滅的な打撃を受け、その復旧に駆け付けた全国のガス企業の復旧応援部隊（ピーク時500名近い人たち）の宿泊を一手に引き受ける話が出て、一息ついたという。一か月にわたって早朝から深夜まで一丸となって対応した由。その後も、こうした人たちが家族を連れて泊まりに来るようになったそう。

もう一つ強みがある。隆子女将が50年前に始まった「山形花笠祭り」の初代ミス花笠をつとめたのをはじめ、その後も長年にわたって、天童女将会、さらには山形県女将会の会長として培った人脈、交友の広さが働いているのだろう。

天童と言えば、将棋関係者にとっては“聖地”であり、プロ棋士戦、アマの大会など毎年開かれている。その棋戦の舞台をも、この旅館がたびたび提供している。その功績で、このほど「大山康晴賞」を旅館としては初めて受賞した。

「いまは対外的な関係は社長と長男が担当しており、私は次男とともに、さらに安らげる旅館をめざし、個人客の夕食を別の場所で摂っていただくよう個室の増設などの改善を進めています」。そして、今年3月からスタートした「東北観光博」のイベントには、旅館挙げて積極的に参加していき、“自然との共生”をテーマに東北復興と観光振興に力を注ぎたい、と隆子女将は言う。

（加納記）

〒994-0025 山形県天童市鎌田本町1-1-30

電話 023-654-2211、HP: www.takinoyu.com/

東京 霞が関の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

スカイツリーで墨田区は活性化した

墨田区産業観光部長 高野祐次（たかの・ゆうじ）氏



82年3月上智大学経済学部卒、墨田区役所入所。産業経済課長、新タワー観光推進課長、財政担当課長。新タワー調整担当部長などを経て12年4月から現職。54歳。

ースカイツリーができてから墨田区の観光にどのような変化が出てきましたか？

5月22日に開業してから約4カ月ですが、観光だけでなく、地域の活性化に非常に良い効果が出ています。数字で上げますとスカイツリーによって1年間で2500万人の来訪者と880億円の経済効果が上がると予測していました。ところが2カ月間で1千万人の人が来ました。当初の予想以上です。それに墨田区の名前が全国で知られるようになりました。今までは墨田区と言っても知らない人が多かったですからね。それに墨田区に残っているモノづくりに関し一緒にビジネスをしようという動きが出ています。

ー具体的に言うとなどのようなものでしょうか？

I T関係のソニーエリクソンと言う会社がありますが、そこが墨田区に残っている飾り職人の技術とばねの技術、それに江戸切子の職人の技術を合わせて、携帯電話のスタンドを作りました。1台3万から5万円の高いものですが売れているようです。墨田区は「すみだ地域ブランド戦略」でブランド認証事業をしていますが、スカイツリーができたことでデザイナーやクリエイターさんたちが墨田区にあるモノづくりについて、新しいブランドを作ろうという動きがあり、さらに飲食店などでも、人が集まるということで新しい店ができています。ハワイにあるパンケーキの店の第一号店が浅草通りにできました。以前なら銀座などにできたのでしょうか。

ー光があれば影もありますが、人が急に増えたので区民からの苦情も多いと聞きましたが。

ゴミや住民への迷惑行為などは多くなっています。その対策のために6月の補正予算で警備と清掃対策のための予算を取りました。川の清掃などには緊急対策として取り組んでいます。交通渋滞は予想したほど出ませんでした。密集市街地と言うことで車ではとてもいけないという人が多かったのでしょうか。周りの商店街もスカイツリーが開店してから客がそちらに流れ、減ってしまったという苦情がありますが、以前に比べれば増えているのは間違いありません。

ー外国人観光客はどの程度増えていますか？

数字ではつかんでいませんが街を歩いていると外国人観光客は間違いなく増えていますね。そうした

ことから国土交通省は12年度の予算で訪日外国人旅行者の受け入れ整備事業の戦略拠点の5か所のうちの一つに押上・業平を入れてくれました（コロンブス12年6月号参照）。

外国語のパフレットや電話通訳のサービスなど行います。外国語の表記なども増やしていきます。浅草という観光地を背後にもっていますから、外国人観光客はこれから増えていくと思います。

（聞き手は、フリージャーナリストの阿部和義）

高野部長には、11月16日の「観光立国セミナー」（海事センタービル）で講演していただく予定。

「鉄道」と「観光」④

鉄道の持つ三つの役割(三)

J N協会副理事長・須田寛（J R東海相談役）

前述してきたように鉄道は観光について次の三つの役割を果たしている。

- ① 観光地へのアクセス(交通手段)として。
 - ② 観光の価値、効果を高める。
 - ③ 鉄道(利用)そのものが観光資源となる。
- 本稿では③の役割について述べる。

(三)鉄道(利用)そのものが観光資源となる場合。

これにはふたつのケースが考えられる。

第一は鉄道を構成している車両施設そのものが観光資源となる場合であり、第二は鉄道の利用、そのこと自体を観光対象(資源)とする場合である。

いずれも近年の鉄道ブームの動機ともなっており「鉄道観光」という新しい分野の観光がニューツーリズムのひとつとして注目されるに至っている。

まず鉄道の車両施設が観光資源となる場合である。従来一部の鉄道マニア等といわれる人々を除いて大方の関心をよばなかった鉄道の車両施設が多くの人々に注目されるようになったのは昭和50年頃から平成の初めにかけて鉄道の車両施設の近代化(更新)が急速にかつ大規模に進みはじめたことによる。即ち、蒸気機関車が引退したり客車電車のシステムチェンジが進んだり、古い線路や設備が廃用されたりした。このために消えてゆく旧車両施設が永年親しまれたものであっただけに、それを惜しむ声と保存すべきとの声が高まってきた。一部の鉄道施設(駅、鉄橋など)の重要文化財に指定されたり多くの保存車両の展示運行、さらには鉄道博物館資料館等が各地に設けられたりした。これらが話題をよび、又学習観光体験観光等の新しい観光ニーズにもマッチして見学(観光)客が多数訪れるようになった。

碓氷鉄道文化むら(群馬)、さいたま、名古屋に開かれた大鉄道博物館、京都の蒸気機関車館など、年間数十万人から百万人に及ぶ入場者がある大観光スポットに成長したところも出てきた。これらは鉄道車両施設が観光資源として又文化財として大きい役割を果たした例である。

アメリカこぼれ話-21

「タイタニック号の乗船した客、しなかった客」

JN協会理事 北村 嵩

1912年4月、タイタニック号は、その処女航海の途中北大西洋で氷山に衝突して沈没し、乗客、乗員2200名のうち助かった人はわずか700名余りであった。

世界最大級の巨大豪華客船の処女航海であり、当時の欧米の富豪たちが大勢乗船していた。一等船室はまるで社交サロンと化していたが、3等船賃36ドルの船底には新天地アメリカに夢を求めたアイルランドからの移民が多数乗船していた。乗客の中で飛びぬけた金持ちはジョン・ジェイコブ・アスター4世とその再婚したばかりの18歳の新妻であった。アスター家は最も古い財閥の一つで、曾祖父が毛皮商で財を成し、当時のマンハッタンに多くの不動産を所持していた。彼も現在のエンパイアステートビルの場合に、後に高級ホテルの代表となる「ウォールドルフ・アストリア・ホテル」の前身「アスター・ホテル」を建てていた。その他の乗船者では、鉱山、金属、機械の分野で財をなし一族がグッゲンハイム美術館を設立した資産家ベンジャミン・グッゲンハイムも乗船していた。

彼は沈没直前に燕尾服と蝶ネクタイで正装し、近くにいた人に“もし生き残ったら、妻に、夫は男らしく死んだと伝えて欲しい”と言い残している。世界最大の百貨店、ニューヨークの「メーシーズ」の創業者イシドア・ストラウス夫妻は、船と最後を共にした。救命ボートは女性優先であったため、夫人は夫と別れることを嫌い、“長い人生と一緒に過ごした”夫の腕に抱かれて、船室に戻ったのである。鉄道関係者では、カナダ横断鉄道の開発者チャールズ・M・ヘイズ、ペンシルバニア鉄道社長のジョン・B・セイヤー、フィラデルフィアの路面電車王の息子ジョージ・D・ワドナー夫妻などが乗船していた。救助された乗客の一人は日本人であった。当時の鉄道院の官僚で、欧米に鉄道施設の視察の途中に乗船していた細野正文ある。音楽家で元YMOのメンバー細野晴臣の祖父である。

予約していたが乗船直前にキャンセルして一命を取り留めた有名人も多い。その筆頭はタイタニック号を所有しているホワイトスター社のオーナーで、アメリカ最大規模の私営銀行の主、J・P・モーガンである。処女航海に乗船すると公言していたモーガンが出航直前のキャンセルし、運ぶ予定の買い集めた美術品まで下ろした彼の行動は後に謎を呼んだ。ほかにもモーガンの友人で、パリ駐在のアメリカ大使を務めていたロバート・ベーコン夫妻や、鉄鋼王で、一族がフリッツ美術館を設立したヘンリー・フリッツもキャンセルしている。

船の関係者ではホワイトスター社の社長J・ブルース・イズメイと船長エドワード・ジョン・スミスの行動が明暗を分けた。イズメイは船会社の社長でありながら、沈み行く船に残った乗客を見捨てて救命ボートに乗り込み救助され、後の査問会議では非難が集中した。一方、スミス船長は船の命運がつかけている中、乗組員の持ち場を回り、“もういい。持ち場を離れて自分のために力を使いなさい”と告げ歩き、最後に船と運命を共にした。

ハワイの残照

小田急電鉄(株) 顧問 利光 國夫

多くの日本人にとって一番身近で、人気のある海外リゾートと云えばまずハワイだろう。グアム島も近くてそれなりの良さはあるが、ハワイとは比べ物になるまい。

小田急グループでもバブル期に海外投資熱に浮かされてワイキキのホテルを買収した。当時私はレジャー施設部門を担当しており、既存の施設への投資を優先すべきだと考えてこの件には批判的だったが、皮肉にも結果的にこのホテルの運営会社の役員としてホテルの経営に携ることになった。その為年二回現地の関係者との予算会議でハワイに行くことになり、ハワイが急に身近な存在になったが、お陰でハワイのいろいろな場所を訪ねる機会を得たのは役得と言うべきだろう。

私の若い頃は、ハワイは「常夏の地上の天国」と言われてとても一般人が気軽に行ける所ではなかったから、写真や映画などでその美しい光景を想像するしかなかった。

ハワイを舞台にした映画はミュージカルなどが多いが、私の一番印象に残っているのはF・ジンネマン監督の「地上より永遠に」である。1953年のアカデミー賞8部門を受賞したこの作品は、ハワイを舞台にしてはいるが自然や観光的要素はゼロのシリアスなドラマで、M・クリフト、B・ランカスター、F・シナトラ、D・カー、D・リードという豪華な配役で、私と同世代の洋画ファンならまず知らない人はいないだろう。B・ランカスターとD・カーの夜の波打ち際でのラブシーンは、当時の映画としてはかなり官能的で今もインターネット上の作品紹介にはこの場面の写真が載っている。ホノルルを去る客船のデッキで偶然隣り合ったD・カーとD・リードが言葉を交わすラストシーンがまた良かった。D・カーが首にかけたレイを外して海に投げ「レイが陸に流れたらいつかこの島に戻れるという伝説があるのよ」と言うとD・リードは「私は戻りたくない、恋人が日本軍の攻撃で死んだの。リー将軍にちなんでR・E・リー・プルウィットという名前よ」、D・カーが「古風な名前ね」とつぶやいて視線を向ける先にレイが漂いアロハオエのメロディが流れるラストシーンはまことに印象的だった。

ワイキキのホテルの屋上で仕事の疲れをカクテルで癒しながら、遥か夕陽に染まる水平線を眺めていたあの頃が今では懐かしく想い出されてくる。

☆ ☆ ☆

会員の投稿を歓迎します～情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2012年11月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。発行は11月25日、投稿締め切りは、11月15日です。

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPAN NOW観光情報協会(電話03-5304-9500)

ツヴェーベルクーヘン

筑波学院大学学長 大島慎子

ドイツの秋の到来は、フェーダーヴァイサーと呼ばれる新ワインと、ツヴェーベルクーヘン（玉葱ケーキ）が街に登場することである。ワインの名産地には、必ずツヴェーベルクーヘンのご当地レシピがあるが、基本は小麦粉の生地の上に、玉葱・サワークリーム・卵・ベーコン・キュンメルなどを混ぜ合わせたものを載せて焼いたもので、甘いものではない。キッシュのようなイメージである。フェーダーヴァイサーはアルコール発酵中の新しいワインで、味としてはぶどうジュースとソーダが混ざった濁り酒のようなもの。シードルとも呼ばれ、3ユーロ弱（約280円）でスーパーでも入手できるが、発酵中でビンのふたが密閉されていないので、持ち運びには注意を要する。

ツヴェーベルクーヘンは、日本で言えば雑煮のように地方色が豊かなのである。ケーキ屋ではなくパン屋の店頭で「ツヴェーベルクーヘン焼きあがりました」とポスターがでるということは、惣菜パンなのかもしれない。

最近知ったが、岩見沢ではツヴェーベルクーヘンのコンテストを開催しているそうで、これは岩見沢の新鮮で安心、安全な農産物を宣伝するために、岩見沢産の「タマネギ」と、小麦粉の「キタノカオリ」を使うことが条件だそうである。ワインの新酒をだすまでにはいかないらしい。

加賀市観光フィールド大学に参加して

松蔭大学観光文化学部長

澤田利彦（JN協会理事）

加賀温泉郷で知られる石川県加賀市が全国の観光系学部を持つ大学に呼びかけてスタートさせた、第一回「観光フィールド大学」に、松蔭大学観光文化学部の一行が9月3日～5日の3日間の日程で参加した。

この「加賀市観光フィールド大学」は、加賀市のまちづくり、歴史的景観の修復活動の現場（山代温泉、山中温泉、片山津温泉、橋立、柴山湧）を歩きながら説明を受ける体験型授業。加賀市が誇る九谷焼について学芸員による解説や窯元での絵付けを体験する授業。さらには観光学博士であり加賀市の市長である寺前秀一氏（JN協会理事）による「加賀市の観光・人流戦略 — クール加賀300万人構想」の講義など計7コマ。各90分の、加賀市をまるごとキャンパスに見立てた体験型プログラムであった。

今時の学生は夏休みをまとまったバイトに充てるケースが多いため、何人の学生が応募してくれるか心配したが、結果的には松蔭大から学生15名（内留学生3名）、教員3名の計18名が参加した。大学での座学では睡魔と闘う姿をみせがちな学生からも異口同音に「参加してよかった」、「楽しかった」の声が聞かれたのは嬉しい誤算であった。（澤田）

加賀市によると、今夏このプロジェクトに参加した大学は、亜細亜、東海、福井県立と松蔭の4大学で、参加者数は約50名。この秋には、東京大学生2名が個人的に参加する予定という。今後とも、随時（大学の休み期間中心？）「加賀市観光フィールド大学」を実施するという。（編集部）

世界遺産物語 ②

パレスチナ初の世界遺産「聖誕教会」

今年7月開催のユネスコ世界遺産委員会で、「パレスチナ」国家から初めて聖誕教会が世界遺産に登録された。言わずと知れたイエス・キリストが誕生した「元・馬小屋」である。その半月前に聖誕教会を訪れていた筆者は、このニュースを聞いて狐につままれたような気になった。イスラエルが「首都」（国際法上首都はテルアビブ）と公言するエルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の3大聖地として、「嘆きの壁」や「岩のドーム」「聖墳墓教会」「ゴルゴダの丘」など数々の著名な宗教関連史跡を有し、世界遺産都市の資格充分と見られている。だが、隣国ヨルダンとの領土問題が微妙にからむ現状は、ヨルダンからの申請を受け、預かり登録という曖昧なものである。筆者の知るイスラエルのガイドさんは、正式な登録ではなくヨルダンが申請することにより（登録の）権利を得たものというふうに理解している。その間隙を縫い、唐突にパレスチナ自治区ベツレヘムにある聖誕教会が、国連未加盟のパレスチナ国家の申請によって世界遺産として認められたのである。

パレスチナはアメリカやイスラエルの反対を押し切り、いま国連に「国家」としての承認を申請中であり、当然イスラエルは政治的意図ありとパレスチナによる聖誕教会の登録には反対していた。

渓谷と坂道の多い丘陵都市エルサレムから、程遠からぬ地にあるパレスチナ自治区への「入国」には、有刺鉄線を張り巡らしたチェックポイントで厳しいボディチェックがある。乗り付けた車も、ドライバーも交代してパレスチナ側の車とドライバーに交代させられる。

入国手続きを済ませて石造りのギリシャ正教風の教会内に入ってみれば、そこには最早国境はない。敬虔なクリスチャンが身を屈めながら歩み、半地下の「Star of Bethlehem」＝「キリスト誕生の地」の前で跪き、お祈りを捧げる。藁の敷かれた木製の厩のイメージはなく、薄暗くはあれどもいまでは大理石に囲まれたペチカ風の、窮屈ながらも聖なる「キリストご誕生の地」であり、細い通路を隔てた向かい側には初めて産湯に浸かった、これも大理石で造られた聖地スポットがある。

2000年も時を経ると厩は伝説となり、かくも「神話」となるものか。外へ出れば、白い雲をちぎったように突き抜ける真っ青な空に、まばゆい太陽が強烈に目に入ってくる。（近藤節夫）

保科正直が治めた伊那谷の要衝

絵島が28年の幽閉生活を送る

JN協会参与 長宗我部 友親

高遠城は、長野県の中部に位置し、伊那郡に属する高遠町にある。南アルプスと伊那山地に囲まれた山間地である。



その城は、杖突峠を源とする藤沢川と南アルプスに流れを發する三峰川が合流する深い谷に取り巻かれ、自然の要塞となっている。

しかし、春にはコヒガンザクラ咲き、多くの観光客が訪れる。このサクラは、明治に城の建造物が競売に掛けられ、丸裸になった際、城跡に植えられたものである。

江戸時代中期に、江戸城大奥の御年寄の絵島が、山村座の歌舞伎役者・生島新五郎との逢引をしたことをとがめられ、この高遠藩に幽閉されることになった事件で知られる。絵島は八畳一間の部屋で警護の武士に見張られ二十八年間暮らした。

もともと高遠城は、武田信玄の家臣保科正直が治めていた。しかし天正十八年（1590年）、徳川家康が関東にやってきた際に、下総の国に

保科正直は移された。

その後、毛利秀頼、京極高知と続き、慶長五年（1600年）には保科正光が旧領に復歸した。寛永八年（1631年）には徳川將軍秀忠の庶子である保科正之が家督を継いでいる。

保科家の次は鳥居家、内藤家と続く。

三峰川の急流は現在は人造湖の高遠湖となつて、その湖畔には復元された絵島の囲み屋敷が置かれている。

絵島は、高遠城の北側にある杖突川沿いの蓮華寺に葬って欲しいとの遺言を残していたため、江島の墓は玉垣に囲まれて、蓮華寺の本堂の裏にある。絵島資料館も同寺に建てられた。



NEW SPOT

in japan 34

熱海時間

温泉保養地の老舗、静岡県熱海市が新しくホームページ「熱海時間」を5月に立ち上げた。地方都市の人口減少に悩む対策の1つで、熱海を生活拠点として日々の時間を過ごしてもらおうと、全国の人びとへ熱海に住みませんか、と呼び掛け、移住する5つの魅力を「熱海時間」で繰り広げる。

まず自然——海が東に面し「海から太陽と月が昇る街」をうたい、海上に映す月光の道は幻想的でパワースポットを感じさせる。温泉——千数百年前に海中に熱湯が大量に湧き「あつうみが崎」と呼ばれた。市内の源泉は500を超し、地域によって戸建てなら自宅に温泉を引ける。食——古くから住む文人墨客らの舌を満足させるため料理人の質が上がり、いまや市内に約400店舗の飲食店が並ぶ。アクティビティ——海水浴はもとよりダイビング、ヨット、カヌーなどのマリンスポーツや



のどかな南国気分も漂う熱海市・JR来宮駅前

ゴルフ、テニス、釣り、陶芸に、相模湾を望む山々のハイキングなど。パラグライダーの空中遊泳も魅力的だ。

医療——移住する安心ポイントの核。病院が多く、交代制で患者受け入れ態勢に意を尽くすという。静岡県はドクターヘリ導入に積極的と誇る。戦後の高度経済成長期前まで新婚旅行で盛り上がった熱海市だが人口は8月末に3万9,600人で減少傾向が続く。貫一お宮の松で賑わったあたりもホテル撤退・倒産が相次いだ。旅先としては東京に近すぎる欠点?から脱却し、終の棲家の期待へ向けて熱海を選択が進む。

(文・写真 林 莊祐)

「源義経と辻政信」

JN協会理事 加賀市長 寺前 秀一

物語とはいえ安宅の関をなぜ義経は無事通過できたのでしょうか。義経が頼朝から逃げおおせた理由は、鎌倉幕府が直接捜査の出来ない治外法権の場所が多かったからです。この時代の公権力は、公家、武家、寺社の三種の領主が分掌していました。大使館などの今日の治外法権の場も、国法が全然通用しない無法地帯ではありません。ただ権力の及び方が間接的ですから、捜査は不徹底になりがちなのです。

この中世において、武家法、公家法等が多元的に存在しましたが、適用範囲は限定的なもので、在地社会においては、それとは違う次元で秩序がありました。渡辺京二氏は、徹底的な「自力救済原理」「当事者原理」に貫かれており、そこには現代の「法治」も「個人」の概念もなく、武装した農村がお互いに権益をめぐって衝突し敵対する相手には

暴力的に攻撃を加えても罪とされないのが、中世農村の「自律」であったとします。

安宅関でおきたことと同じことが、終戦直後に起こりました。戦犯容疑者の辻政信氏は、当時のベストセラー『潜行三千里』のなかでも記述しているように、故郷の加賀東谷（一面写真参照）をこっそりと訪れています。本土は連合国軍の間接統治のもと、日本政府の行政管理の元にありましたから、権力は分散していました。日本の民衆、官憲も完全に連合国軍の支配下にあるものではなかったことが、潜行を成功させた大きな要因でした。

ノモンハン、ガダルカナルなどの作戦失敗の責任を問われながらも、敗戦後変装して生き延びたのちに、追放解除後、辻政信氏は衆議院旧石川一区から立候補しました。トップ当選させたのは、加賀地区の選挙民という「敗戦をやむを得なかったと思い、敗戦を悔しく思う感情共同体」とされます。

10月22日に加賀市で行われる須田寛理事の講演会を機会に、加賀東谷にある辻政信氏の生家をご訪問ください。

観光立国セミナー 第80回(2012・09・14海事センター)

北京で暮らした15年

蔵重 信隆氏（元キャノン(株)中国総代表）

キャノン中国進出の先兵として北京などで暮らした10年、早期退職後も5年間一市民として残留した体験談を豊富な写真（スライド）を見せながら語った。

在職中の話で「なるほどな～」と感じたのは、汚職天国中国の実態。ある事案で、役所に申請書を提出した際に「A事務所を経由しなければ、受け付けない」とキーマンから指示があった。調べてみると、この事務所の社長は、そのキーマンの奥さんだった。こんな例が、数多くある。どの役所でも、上から下まで、どっぷり腐敗しており、それを目の当たりにした。

市民としての北京生活は、中国各地あちこちを見て回る日々だったという。密かに国境を越えたり、普通なら立ち入れない場所にも、潜り込む。新聞や雑誌では、お目にかかれなような貴重な写真がいっぱいだった。なかでも、むき出しの公衆トイレ、数年前の大地震で崩壊した街並みをそっくり残し、“観光名所？”にしているところ、横行する偽札の現物などには、「え～」と驚く。

最後に、最近流行っている標語「大きく騒がなければ大きな成果は得られない。黙っていたら、何も手に入らない（大意）」は、尖閣問題に対する中国の反応をみると、大いに参考になるだろう。

次の81回観光立国セミナーは、10月11日（木）正午から海事センターです。「オリンパス事件に見る、日本人の“情けない”部分」（フリーライター・山口義正氏）

82回セミナーは11月16日（金）正午から海事センター。講師は、東京都墨田区の産業観光部長・高野祐次氏で、「スカイツリー効果を検証する（仮題）」。

JN協会主催の観光立国セミナーのこれまでの講演内容は別途、原文のまま印刷物とし、事務局に保存しています。

各地から

◎東北地方復旧ボランティア・バス旅行

東北地方のガレキ処理などを手伝うボランティア・バス旅行は、各社が企画・実行しているが、その一つ。千葉県佐倉市の「(株)めもりー旅行」が計画しているのは、10月19日（金）と10月26日（金）の2回。いずれも、深夜バスで出発して車中泊、宮城県の七ヶ浜で作業後、同地で宿泊し翌日も作業して、3日目夕刻に帰京する。

経費は、バス代、宿泊費含め15,000円見当。詳細は、同社のホームページで検索するか、043-483-7878へお問い合わせを！

■松下村塾170年「特別展」

『維新塾』が脚光を浴びているが、これまで一番知られているのは「松下村塾」だろう。吉田松陰が中心で、高杉晋作、伊藤博文とキラ星のごとく、明治維新実現の逸材を生んだ。今年が開塾170年に当たり、特別展「松下村塾の変遷」が来年2月3日まで、萩市にある松陰神社宝物殿「至誠館（しせいかん）」で開催している。また、10月14日には「記念講演とシンポジウム」が、サンライフ萩で開催される。松陰の研究者として有名な海原徹・京都大学名誉教授による基調講演や、5人の研究者によるシンポジウムが行われる。

【問い合わせ】松陰神社宝物殿「至誠館」電話：0838-24-1027

★行徳・浦安三十三観音札所めぐり

全国各地に「札所めぐり」があるが、東京の近郊にも行徳、浦安に三十三観音札所がある。宮本武蔵が滞在したという「徳願寺」、勝海舟の石碑がある「自性院」、芭蕉の句碑がある「法善寺」など。3回に分けて参加すれば、33か所を巡ることができる。（問い合わせ：047-357-8787）

10月07日（日）午前8時30分、東西線妙典駅前集合

今年の夏の暑さと、秋から冬の天候予想

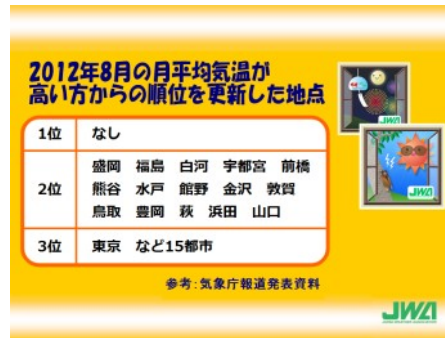
今年の夏は暑くなりました。8月の平均気温は、盛岡、熊谷、鳥取など15の都市では、統計を始めてから2番目に高くなりました。記録的猛暑となったおとし2010年に続く暑さです。

一方で、この夏にはエルニーニョ現象が発生しました。エルニーニョ現象とは、太平洋の海水が南アメリカ・ペルー沖で通常より温かい状態が数ヶ月以上続くことをいいます。世界中で異常気象が起こる要因となり、日本では冷夏に

なることが多くなります。しかし、今年はフィリピンの東の海水温がやや高かったことなどが影響して猛暑となりました。

また、エルニーニョ現象の発生している冬は、日本では暖冬になる傾向があります。先月の終わりに発表された3か月予報によると、10月は秋がぐっと深まり、ようやく各地の紅葉が進みそうですが、11月は冷え込みが長続きしないと予想されています。早くも、今度の冬の寒さが気になります。長期（3か月）予報は毎月25日頃に発表されます。最新の予報を生活、仕事、行楽などに上手に活用できるとよいでしょう。

日本気象協会 小田美穂



会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

理事長：大島慎子(筑波学院大学学長)
顧問：丹羽 晟(元理事長、日本空港ビルディング顧問)
副理事長：岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元JALUX特別顧問)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
加納隆(元朝日新聞経済部記者)
事務局長：杉行夫(理事)、事務局次長：堀り(理事)
支部長：片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、
須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本真一(北海道)、梅原利之(四国)、

【団体会員】(2012年09月28日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワルト、岩田地崎建設(株)、(株)えんれいしゃ、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)キャンドウ、(株)熊谷組、(社)くらしのリサーチセンター、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、医療法人社団同友会、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルディング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)バロックジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテル外口ボリタ、前田建設工業(株)、(株)ホテルマックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんファイナレ、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)、

編集後記

「愛国無罪」という“妖怪”が、中国から徘徊しだしている。第二次世界大戦の最中、愛国少年だった筆者は「鬼畜米英」という言葉を、いま思い出す。「国を愛していれば、何をしてもいい」—こんな論理は、世界に通用するのだろうか？秩序あるデモはいいだろう。しかし、放火、建造物損壊、略奪は立派な犯罪行為であり、それは良識ある世界では通らない論理ではないか。

かつて中国では「造反有理」が、まかり通っていた。中国共産党政権は「愛国無罪」を認めているようだが、下手をすると「造反有理」につながり、民衆の攻撃対象が日本ばかりでなく、中国政府になってしまうことを恐れ始めているようで、デモ規制も始まった。実害が出る前に早く決断して欲しかった。

そもそも今回の中国人民の日本排撃は尖閣諸島国有化がきっかけで、日本政府にも問題がある。鄧小平時代、尖閣問題は棚上げして、友好関係を築こうとしていた。最近でも、中国トップと野田総理が会った際、待ったが掛かった。それを強行突破した裏には、石原都知事に煽られたり、自民党の強硬論に対抗する要因もありそう。今回の事件でも、日本政治の貧困さ、弱体化が見えてくる。日本の相対的な国力低下も、背景にある。打開策が見えてこない。(加納)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：大島慎子(JN協会理事長)

編集長：加納 隆(JN協会副理事長)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、

地方自治体、民間企業、マスコミなど